

もみじ福祉社会 ニュース

がんばろうや

2013年1月 第63号

発行/社会福祉法人 もみじ福祉会



第一もみじ作業所(生介)
第二もみじ作業所(生介)
第三もみじ作業所(就移・就継B)
ケアホーム つばさ/たんぽぽ/夢トピア/ドリームハウス
もみじヘルパーステーション夢トピア
障害者生活支援センター めーぷる
放課後対策事業 のびのび/わくわく
〒730-0823 広島市中区吉島西2-1-24
TEL 082-243-0331 FAX 082-243-0497
HP:fukushi-momiji.or.jp

もみじ福祉社会の目指すもの(骨子)

私たちは、障害者も含めた地域で生活するすべての人たちが、文化的で平和な環境の下、自らの心と身体、そして人生の主人公として暮らせるための総合的な権利保障を目指し、以下の事に取り組みます。

- 仲間(利用者)の生きる力の充実と生活の質の向上を目指します。
- 地域の生活と福祉の向上への貢献を目指します。
- 事業の民主的な運営と地域の諸団体との協力・共同を大切にします。
- これらの実践の要となる、職員の、障害や発達障害、福祉や障害者運動についての専門性の向上につとめます。

新しい年を迎えました。福祉改革の「骨格提言」や違憲訴訟の「基本合意」を反故にした政の立派な審判を受け、「経済改革」とした政権となり日本丸の舵取りが代わりました。福祉の動向にも影響があることは必至です。「人間にとつて一番大事なことは何か」を障がいのある仲間たちの「はたらく・くらし・いきがい」をとおして考え、平和や自由や人権が疎かにされ弱い人が切り捨てられることのない社会に向けて、これまで以上に実践・運動・研修に力の結集が必要な情勢だと思います。信頼と連帯を確認し合い元気と勇気の出るスタートをきりましょう。

もみじ福社会は、一九八〇年の無認可作業所発足後三十三年を迎え、一九九三年の「法人認可」から二十年を迎えるとしています。障がいのある人たちの願いや夢の実現をめざし、「もみじ福祉社会のめざすもの」のコンセプトを基に事業を広げ、障害者福祉の先駆的な役割を果たしてきました。また、もみじ福社会では、障がいのある仲間や家族の願い、そして障害福祉の動向や課題を重ねています。

①高齢化・重度化(医療的行為を含む)への支援体制

②ケアホームづくり

③仲間の工賃・職員の給与アップ

④豊かな支援をするための人材育

繋がりの輪をひろげよう

もみじ福祉社会 理事長 浜崎 勝

- ⑤障害福祉の社会貢献としての取り組み(日中活動・生活支援活動の充実・発展)
⑥拡大する事業に相応しい組織機構づくり

一方、事業拡大(百人を超える職員)とともに、「もみじ福祉社会のめざすもの」の理念の共有・周知の難しさや、日々の実践・支援などの「すり合わせ」が必要な課題もでてきていています。

様々な声に耳を傾け話し合い、要求や願いを解決・実現していく「もみじ福祉社会のめざすもの」の原点に立ち返り、協働のエネルギーとしましょう。

また、これらの取り組みには「求める・創る」のバランスが大事だと言う反貧困ネットワークの湯浅さんの言葉も、これから福祉のあり方を考える参考になります。障がいのある仲間や家族・職員、そして多くの人たちと実践・運動・研究のコンセプトとして「求める・創る」の認識・感性を大切にしていきたいと思います。

新しい年を迎え、弱い立場の人を人間として大事に考え実践する人との繋がりの輪を広げていくために頑張りましょう。

ミショニン労働とも言われます。「コミュニケーション」の成立要件として「愛・希望・勇気」が大事に言われ、なるほどと共感できます。もみじ福社会にかかわりのあるもの同士がそうしたかわう勇気が湧いてくるものだと「希望」がわき「よしやろう」といってあります。「愛・信頼」を前にコムニニケートするなかであります。

提にコムニニケートするなかであります。

だと言われます。「愛・勇気」が大事にあります。

「希望」がわき「よしやろう」といってあります。

う勇気が湧いてくるものだと

あります。

「希望」がわき「

